

様々な自然環境と、  
多様な生活を営む人々との  
共生について考えます。

環境共生科学課程

自然・社会・人間が  
共生するシステムを考える

社会共生科学課程

人間環境科学課程

異なる価値観や社会制度を  
背景に暮らす人々の共生に  
ついて考えます。

心という視点から、  
環境、社会、人間の  
あり方を考えます。

環境システム学類では、「環境」を次のような領域から捉えます。

たとえば、日本のエネルギー問題は、科学技術だけで解決できるのでしょうか？ 日本の優れた技術を活かすには、新たなエネルギーによる自然環境への影響の評価、普及を促進する法律などの社会制度の検討、地域に暮らす人々への理解が必要です。これら自然環境・社会環境・人間環境の問題を互いに関連付けて考えることが現代社会には必要です。ほかにも、企業活動や人の動きの

グローバル化など、現代には、自然・社会・人間についての科学が、手を取り合って取り組まなければならない課題が数多くあります。そこで、環境システム学類では、現代の様々な環境問題に対応するために、3つの課程を設置し、各課程で専門性を養いつつ、課程の枠を超えた学修が可能なカリキュラムを用意しました。

## 環境共生科学課程

## 環境システム学類の 3つの課程



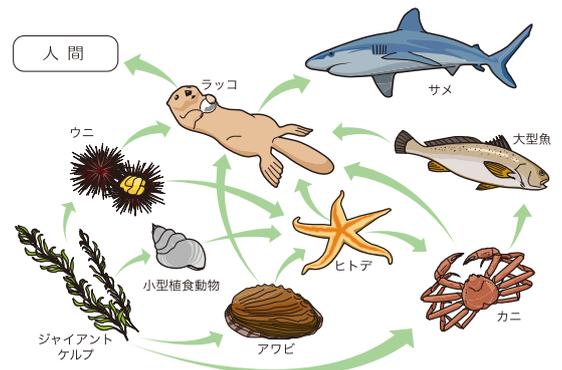
環境システム学類では、1年次において学域・学類共通科目である各課程の入門科目を履修し、領域横断的な視点を形成します。2年次以降は各課程に所属し、それぞれの課程で専門性を深めつつも、他の課程の研究を幅広く学修できます。以下では、各課程について紹介します。

# 自然環境・現代社会・人間の心

この地球上には、海、山、川、そして砂漠にも、多様な生物が棲んでいて、生態系という共生のシステムを構築しています。そこには、当然、人間の暮らしも関わっています。近現代の社会では、様々な自然環境の上に、大都市を構築するようになりました。そして、様々な環境問題が生じています。

たとえば、海の中ではそれぞれの海域ごとに、自然のシステムが成立しています。そこに人間が過剰に関わると、システムが崩れてしまいます。下の図でいえば、ラッコは魚やウニ、アワビを食べます。毛皮を得るために、また魚介類が獲れるようにするために、人間がラッコを捕りすぎると、海藻を食べるウニやアワビなどの生物が増えすぎます。すると、ジャイアントケルプなどの海藻は減少し、ウニやアワビも棲みにくくなり、ついにはほとんどの生物が海から消えてしまいます。

このような自然のシステムと人間の営みのあり方を理解し、自然環境の中で人間が共存するシステムを考えるために、環境共生科学課程では、生態学、海洋学、環境科学、ランドスケープ、地理学、社会学、文化人類学などに関する授業を提供します。



具体的には、「異文化の理解」や「文化と共生」、「文化と景観」などの人の暮らしや生活に係わる文化的な環境に関する科目と、「公衆衛生学」や「地球環境の化学」「地域・都市環境学」といった現代の環境問題に係わる基礎的な科目をバランス良く履修します。また、「海洋・陸域環境生態学」「環境政策学」「環境社会学」「環境計画学」を履修して、より学際的な環境に関する知識や方法論を修得します。さらに、「環境アセスメント学」や「環境再生学」などを通して、より専門性を高めていきます。これらの学修により、多種多様な事象が複雑に絡み合う環境問題について、課題を発見し、解決する方法を考える能力を養います。



## 社会共生科学課程

望ましい自然環境を実現するためにも、私たち人間が構築しているシステムである「社会」の力が必要です。世界には多様な価値観やしぐみを持った社会がありますが、それらの社会がうまく機能しなければ、自然環境も破壊されていきますし、個人の幸福も得られません。

生活様式や生命観、対人関係のあり方などについて、自分と異なった価値観を大切に、お互いを理解しながら共に生きるためのコミュニケーションスキルを身につけることが、これからの「社会」の中で生きる一人ひとりに求められます。

このような能力を身につけ、幸福感をもてる社会環境を構築するためには、思想や、社会問題、コミュニケーションやそのツールである言語についての理解が必要です。そこで、社会共生科学課程では、次のような視点から、魅力ある科目を多数配置しています。

### 思想の視点

環境哲学と現代社会、現代の社会思想、現代社会と人間、文化交渉と社会批評

### 社会の視点

公共性の社会学、共生社会と宗教、言語の社会システム、現代の社会問題と社会運動

### コミュニケーションの視点

ディスコースと社会、現代の言語環境、言語表現と世界認識

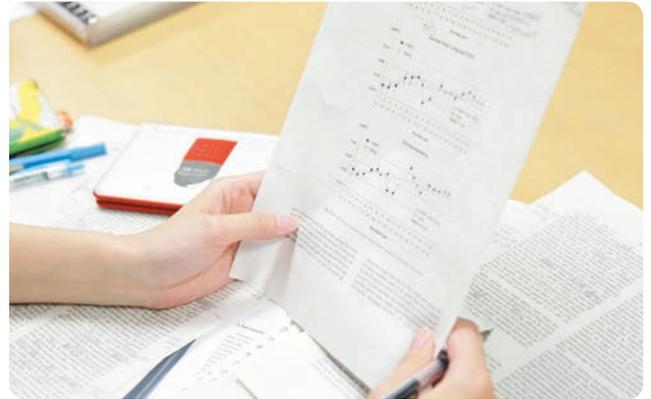
### 歴史・空間の視点

個人創造の思想史、都市文化論、地域研究、グローバル社会の文化表象

これらの科目を、学問の境界を越えて受講することで、人間社会の問題をさまざまな角度から理解し、解決への道筋を学修していきます。また、社会調査実習などのプロジェクト遂行型の演習を実施し、実践力を積極的に養っていきます。



## 人間環境科学課程



環境システムについて考究する一つの方法として、自然環境や社会環境を認識する主体としての「人間」について学ぶこともまた重要な研究テーマになります。人間環境科学課程では、人間について、環境について、そして人間と環境の関係について、じっくりと考え、専門的視点を身につけることを目指します。これらの根本的課題にアプローチするひとつの方法が「人間の心の働き」に注目するという方法です。本課程では、認知科学・心理学・臨床心理学などの多様な専門的視点から、「人間の心の働き」を探究します。

認知科学においては、ものを見る、考える、学習するなどの人間の基盤となる心の働きについて学ぶことができます。心理学においては、社会集団における人間の心理や、人間の発達過程などを手がかりに、心の働きについて学ぶことができます。臨床心理学においては、心の問題や人生の課題を通して変化する人間の心の働きについて学ぶことができます。

本課程のカリキュラムでは「認知科学Ⅰ・Ⅱ」「環境心理学」「対人環境の認知」「臨床心理学概論」といった認知科学・環境心理学・社会心理学・臨床心理学を専門科目として履修し、学問的基盤を形成します。そのうえで、「人間環境科学演習Ⅰ・Ⅱ」「心理検査法」「心の病理学」「文化心理学」などの科目を通して、認知科学・心理学・臨床心理学をはじめとした幅広い心理学領域を履修します。心理学実験や心理学調査、心理検査を通して得られる体験的理解を大切に、それぞれの専門的視点を深めていきます。このような学修を通じて、人間の真のあり方が実現される環境システムを実践的に構築できる力を養成します。





環境共生科学課程 (2016年度入学)  
内田 麻結さん

「環境システム学演習」で学んだことを活かし、地域の発展に貢献していきたい

現代システム科学域または環境システム学類を受験した理由は？

高校時代に理系を選択したのですが、その後もずっと理系か文系か進路を悩んでいました。そうしているうちにセンター試験が終わり、出願先を考えていた時に、理系と文系のどちらに進むかを大学在学中に選択することができる環境システム学類の存在を知り、受験することに決めました。高校時代は理系でしたが、今では文系に進みたいと思っていますので、この学類を受験してよかったと思っています。

将来に対してどのような希望・夢をお持ちですか？

公務員になりたいと考えています。「環境システム学演習」という環境システム学類の必修科目で学び、自ら考えたことを活かし、大学のあつちで公務員として市の発展に協力していきたいという夢を持っています。



社会共生科学課程 (2016年度入学)  
鈴木 玄徳さん

環境問題の解決には自然、社会、人間について幅広く学ぶことが必要である、という理念に強い魅力を感じました

現代システム科学域または環境システム学類を受験した理由は？

「環境」と聞くと自然環境のことが強くイメージされますが、個人を取り巻く社会や、個人同士を結びつける人間関係もまた「環境」であり、それら「環境」の問題を解決するために自然、社会、人間について幅広く学ぶことが必要である、という考え方に強い魅力を感じたからです。

入学当初と現在では、学習に対する意識の変化はありますか？

最初はよく分からないままに授業を選択していましたが、講義を通して自分の興味のある分野がだんだんとわかっていくことが面白いと感じています。



人間環境科学課程 (2016年度入学)  
中村 陽菜さん

心理学の根幹にかかわる部分や臨床現場についても学んでいきたい

現代システム科学域または環境システム学類を受験した理由は？

高校生の頃からなんとなく「心理学」という分野に興味はあったのですが、それが本当に自分のやりたいことなのか確信は持てずにいました。環境システム学類なら、1・2年次生の間は心理学に縛られず現代の環境や社会についての分野が学習でき、結局心理学の道に進んだとしても今現在自分が生きている環境や社会についての知識は必ず必要になると考えたので、この学類を受験しました。

将来に対してどのような希望・夢をお持ちですか？

将来は大学院まで進学して、ドクターの学位を取りたいです。どうせやるならとことんやりたいので、日本の大学院だけではなく海外の大学院に進学することもひとつの選択肢として考えています。人間の心理というのは最も身近でありながら最も難しく理解しがたい問題であると感じているので、少しでも多くの知識を身につけて物事の核心を捉えられる視点を持てるようになりたいです。

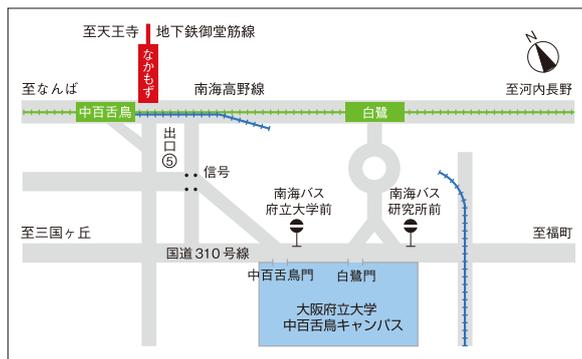
全文はWEBから ▶▶▶



【お問い合わせ先】  
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号 (中百舌鳥キャンパス)  
TEL. 072-252-1161 (代表)

入試について 入試課  
TEL.072-254-9117

教育内容について 教育推進課教務グループ  
TEL.072-254-7514



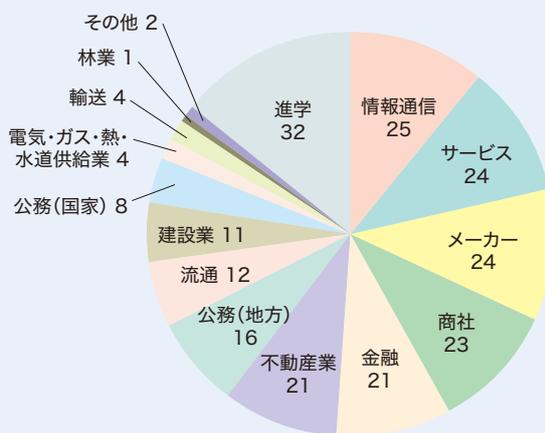
高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～

https://www.osakafu-u.ac.jp/



環境共生科学課程 / 社会共生科学課程 / 人間環境科学課程

卒業生の主な進路 (2017年度-2018年度卒業)



主な就職先

NTTデータMSE、関電システムソリューションズ、ソフトバンク、中京テレビ放送、日立ソリューションズ、マイナビ、マクロミル、あずさ監査法人、全国農業協同組合連合会 (JA全農)、日本科学技術連盟、パーソルキャリア、キンビパレッジ、小林製薬、日清オイリオグループ、パナソニック、不二家、マツダ、三菱自動車工業、日本出版販売、メルカリ、山善、池田泉州銀行、SMBC日興証券、紀陽銀行、損害保険ジャパン日本興亜、大和証券、日本政策金融公庫、三井住友銀行、りそな銀行、京阪電鉄不動産、都市再生機構、阪急阪神不動産、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、大阪ガス、関西電力、南海電気鉄道、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、大阪高等裁判所、大阪国税局、厚生労働省大阪検疫所、法務省大阪法務局、大阪市役所、大阪府庁、大阪府立大学、京都大学、神戸市役所、堺市役所、奈良県庁

主な進学先

大阪府立大学、大阪大学、京都大学、東京大学、北海道大学、立命館大学、Missouri State University